

ふるさと

第31号



コキアと富士山：松田町

目次

- やまゆり利用のガイドライン (1)
日本の民謡：CDで聴くふるさとの唄
..... (3)
洞爺丸台風と北海道 (9)
コロナ禍でのふるさと「茨城」の墓参
..... (11)
新百合ヶ丘駅誕生の頃の思い出 (13)

発行：2020年10月24日(第31号)
発行：麻生ふるさと交流会事務局
担当：平塚 征英、横田 彰夫

麻生ふるさと交流会

表紙写真：平塚 征英 さん

タイトル：コキアと富士山：松田町

年月日：2020.10.18

場 所：松田町西平畑公園

記 事：町田町の「コキアの里」の記事
を見て訪れた。自然園から山道5分ほど
の所。茨城の本場より遥かに小規模だ
が、富士山との組合せは抜群でした。

「麻生ふるさと交流会」ホームページ

<http://web-asao.jp/hp2/asao-furusato/>

10月19日(月)よりガイドラインを緩和します

2020年10月10日 利用者の皆さまへ

認定NPO法人あさお市民活動サポートセンター 理事長 植木 昌昭

麻生市民交流館やまゆりの利用ガイドライン改定について

(10月19日よりガイドライン緩和)

麻生市民交流館やまゆりは、6月以降、新型コロナウイルス感染症対策のための制約を段階的に緩和してまいりましたが、「11月末までの催物の開催制限等について(令和2年9月11日:内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室)」に基づく麻生区役所からの緩和要請により、2020年10月19日から会議室とサロンの利用人数制限を一定の条件のもと緩和いたします。また、一般貸出用備品の貸出制限も緩和いたします。

なお皆さまに当館を安心してご利用いただくために、ご利用の皆さまご自身による、感染症対策を踏まえた責任ある行動が期待されていますので、ご協力のほどよろしく願いいたします。

下記、項目をクリックして内容をご確認ください。

【やまゆりを利用される方】

1. 「やまゆり」ご利用に関するガイドライン(10月19日以降適用)

「やまゆり」ご利用に関するガイドライン(10月19日以降適用)

麻生市民交流館やまゆりの利用ガイドライン(10月19日以降適用)

1. 来場者は会館内で大声での歓声、声援等を行ったり、歌唱したりすることはできません。
2. **利用者全員がマスクを必ず着用**し、手洗い・手指消毒を行い、咳エチケットを守ってください。
3. 利用代表者は活動に参加する方々の健康状態及び連絡先を記載した名簿を作成してください。後日、保健所等の公的機関が感染症対策の一環として聞き取り調査を行う場合がありますので協力してください。
4. 密閉回避の目的で、定期的(毎時10分程度を目安とする)に二方向以上の窓、ドアを開け、換気を行ってください。
5. 密集回避の目的で、共用部分では対人距離の確保(最低1m、できれば2mを目安)してください。特に、机や椅子を片付けてのフロア利用時や活動終了後の退館時に密集が起こりがちなので注意してください。
6. 密接回避の目的で、館内における互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声を避けてください。
7. 下記症状に該当される方の来館はご遠慮いただきます。

(1)来館前に検温を行い、37.5 度以上の発熱があった場合(または平熱比1度超過)。なお、来館前に検温されていない方は事務室備え付けの非接触型体温計で検温を行っていただきます。

(2)息苦しさ(呼吸困難)・強いだるさや軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある場合

(3)過去2週間以内に感染が拡大している国・地域への訪問歴がある場合

8. 利用者の活動に関係する団体がガイドラインを定めている場合には、それを遵守のうえ利用してください。

9. 日中にサロンを利用される方、用事で事務室に来館された方は、受付カウンターに備え付けの「サロン利用・来館確認書」に必要事項を記載の上、提出ください。必要に応じ保健所等公的機関に情報の提供をいたします。

10. 飲食は、水分補給の場合を除き、遠慮願います。

11. 利用前後で、消毒液とペーパータオルを利用し、机、椅子、ドアノブ、各種スイッチ、貸出備品(これのみ使用后)等を消毒してください。

12. 上記1.~11. の各項を遵守することを前提に**以下の通り定員の緩和を実施します**。ただしイベント開催の場合には従来同様必ず「やまゆりテック」と事前相談することを必要とします。「やまゆりテック」からイベント内容に合わせ感染症対策の一環として提案が出された場合には、遵守をお願いします。

(1)サロンの定員は、演者・スタッフ・来場者すべてを含み**現行 30 名⇒40 名**とします。

ただし予約を必要としないフリータイムでの利用は、**配置座席数(現行8⇒16)を定員とし利用時間は 1 時間まで**とします。(予約利用時間帯のサロンの座席配置の目安は6席×6列です)

(2)**A 会議室の定員は現行 9 名⇒12 名**とします。**(会議室の座席配置は一机二席です)**

(3)**B 会議室の定員は現行 15 名⇒20 名**とします。**(同上)**

(4)**A/B 会議室連結利用の場合の定員: 現行 27 名⇒36 名**とします。**(同上)**

13. 貸出備品の制約を緩和します。ただしスリッパとカラオケセットについては当分の間貸出を見合わせます。

(1)ピアノ、電子ピアノの貸出を再開しています。使用前後に十分手指の消毒を行ってください。

(2)新たに**ワイヤレスマイクの貸出を再開します**。使用後の消毒は、マイクを保管するケースに収めてある説明書に従ってください。使い捨てマイクカバーを利用した際は、安全にカバーを外し備え付けのゴミ袋に廃棄してください。

14. 当施設が比較的狭いという実情から、感染症対策がとり難い合唱等の活動については、年内一杯ご利用を遠慮ください。また、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては上記緩和策を変更する場合があります。麻生市民交流館やまゆりのホームページ等で通知しますのでご留意ください。

(2020.10.19 施行)

以上

麻生市民交流館やまゆり HP からコピー。

「やまゆり」を利用する場合は、本ガイドラインを遵守するようにしましょう。

～編集者～

＜日本の民謡 CD で聴くふるさとの唄＞

松岡 裕治

◇はじめに

血につながるふるさと……心につながるふるさと……言葉につながるふるさと……詩人は、ふるさとをこのように歌いました。ふるさとは精神の揺籃であり心のオアシスです。

私たちのふるさは、戦後、めざましい発展と変貌を遂げてきました。しかし、今では、これまでの繁栄と豊かさにかげりが見え、いたるところにほころびが見え始めています。

美しい日本の自然環境も、破壊が進み、日本の風土と景観は時の流れと共に大きく様変わりしつつあります。

かつて私たちの祖先は、生まれ育った土地で労働の汗を流し、さまざまな人生を送りました。ふるさとの唄・民謡は、遠い祖先たちの尊い労作業の中から生み出された仕事の唄であり、それは命の発露でもあったのです。

けれど作業の近代化が進み、あらゆるところに機械が導入され、仕事の形態は大きく変化しました。それとともに、日本の伝統文化、伝統芸能である民謡は、急速に消滅していき、今もかけがえのない文化遺産である民謡がどんどん消えて行っているのです。

ふるさとの民謡に少し耳を傾けて、その唄を味わってみましょう。知らず知らずのうちに、私たちの心の奥深いところから、幼き頃のふるさとの原風景や、友だちの顔、父さん母さん、兄弟、姉妹の顔が浮かんできませんか。

郷土愛という言葉は、今ではあまり使われない言葉になりつつあるようです。しかし、ひとつの家庭だけの幸福ということはありません。私たちの幸せは地域社会の幸せと強く結びついています。だから、家族を愛する心を隣人に、地域に、郷土に、日本へ、世界へと広げていって、地球全体の幸せ

の中で、本当の幸せを築いていきたいと思えます。

ラジオの時代、その声が“銀の鈴”と称えられた初代鈴木正夫。線の太さと情感豊かな赤坂小梅。粋な市丸、勝太郎。透き通った高音で一世を風靡した三橋美智也の民謡は、人々の心を癒やしてくれました。テレビ時代になってからは、声やルックスがよい歌手に人気が集まり、裾に波模様がある華やかな衣装に身を包み、スポットライトを浴びて唄う歌手たちが、大衆受けする唄い方で民謡を唄いました。

こうした時代の流れの中で、本来の日本民謡が持っていた素朴で、しかも味のある節回しも忘れ去られつつあるのです。

この小稿は、現在入手可能なCDに収録されている民謡のなかから、後世に継承されるべき歌手の演唱を取り上げてみました。模範演唱の評価(◎○△)は、独自に設けた“演唱の七法”に基づいています。それは、中国・南齊(479-502)時代の謝赫が『古画品録序』の中で絵画の批評基準として提唱した「画の六法」(1.気韻生動。2.骨法用筆。3.応物象形。4.随類賦彩。5.経営位置。6.伝移模写)を援用し、新たに一つを加えたものです。

“演唱の七法”は以下の通りです。

- 一、素朴野趣(メロディーの流れとリズムが生きいきして、風土自然の味わいと、土地土地の人々の息遣いが感じられる演唱)
- 二、気品格調(粗野、野卑に流れず、生活に真摯に取り組んで生きる姿がにじみ出る演唱。喉と息の使い方がうまく、高音美声を誇ったり、癖のある小節の多用や、声使いの技巧だけに走らない演唱)

- 三、眼前彷彿(生活と労作業の光景が、目の当たりに浮かぶような表現力のある演唱)
- 四、郷愁想起(聴く者それぞれが持つ懐かしい心の原風景を想起させ、命の琴線、民族の血に触れるような演唱)
- 五、情感移入(声の強弱、大小、緩急による曲の構成力、完成度が高く、唄の文句に描かれた情景と、作業者の心情とが一体化した演唱)
- 六、来由表出(その唄が生まれた由来をよく認識して、先人の名唱のよきところを継承し、発展させている演唱)
- 七、爽快和楽(爽快感があり、聴いて心がなごみ、楽しくなる演唱)

なお、唄い手とお囃子方は一体のものであり、唄の良し悪しもお囃子方で決まります。お囃子方の名を省略したり、一括して記載しているCDを見受けませんが、その無理解と無神経に驚きます。

ともあれこの小稿が、ふるさとの唄と郷土を愛する心呼び起こし、併せて民族文化としての日本民謡を知るための一助ともなれば望外の喜びです。

① <山の唄>

「蝦夷富士の唄」(北海道)

♪洞爺ナーア ア登別 中山峠ヨ
中に蝦夷富士 聳え立つ

蝦夷富士と呼ばれる羊蹄山(ようていざん=1893m)の美しさを称え、須藤隆城が作詞作曲。北海荷方節の伴奏の手に、三味線でカッコウの鳴き声を加えてのどかな感じを出した。羊蹄山は北海道西部の後志支庁(しりべししちょう)の倶知安(くちちゃん)、真狩(まっかり)、喜茂別(きもべつ)、京極、ニセコの五町境にそびえる火山だ。

§ ○菊池智次郎 VICG-2040(90)三味線/高橋脩次郎、尺八/下谷博康。

泥臭く野趣のある歌唱。

- 佐々木基晴 KICH-2461(05)三味線/佐々木孝、尺八/松本晁章。
- 久野絹枝 COCJ-30331(99)三味線/佐々木孝、尺八/松本晁章。端正な唄い方をしている。

「津軽山唄」(青森)

(西通り)

♪ヤーイデアー十五 十五七がヤエ
十五になるから山 山登るヤエ
奥のお山に木を 木を伐るにヤエ
腹も空いたし日も 日も暮れるヤエ
これを見せたや我が 我が親にヤエ

(東通り)

♪ヤイエデアー
ハアー西の 西目屋ハアーノヤエ
一にヘナア ハエデアエ ハエ アー大滝
ハアー二に ひが二に やんじ兵衛がヤエ
三にヘナア ハエデアエ アー三階滝
ハア親ハアヤ 親知らハアずアヤエ

祝いの席で唄われる。山で働く仕事唄のようだが山の神を祀る祝い唄だ。

岩木川東側で唄われる東通り山唄と、西側の西通り山唄の二通りの節回しがある。東側の唄は古風であまり唄われず、西通りのものが多く唄われる。成田雲竹、川崎きえといった名人たちがこの唄に磨きをかけた。唄の文句から十五七、十五七節などと呼ばれている。

この唄を今日の形にまとめあげた成田雲竹は、現在知られている津軽民謡のほとんどを世に出した。格調高い張りのある声と、美しい津軽弁で唄われる雲竹の民謡は、いずれも津軽民謡演唱の規範。

(西通り)

- § ◎成田雲竹 KICH-2378(01)尺八/神山天水、星天竜。
- ◎浅利みき KICH-2379(01)尺八/米谷威和男。津軽民謡女性歌手の第一人者。

○大瀬清美 APCJ-5032(94)枯れたいい味を出している。お囃子方はCD一括記載。

△成田武士 K30X-216(87)土の匂いがする
洪い声。笛が寂寥感をかもす。尺八/田村祐、
笛/工藤代志範。

△野呂義昭 COCF-13282(96)婚礼の送り出し
唄。味のある声。尺八/米谷威和男。

△福士りつ TFC-1207(99)尺八/高橋竹山。音源
はSP盤。COCF-32805(04)尺八/斎藤功山。

(東通り)

§ ◎成田雲竹 KICH-2378(01)三味線/高橋竹山。

○山本謙司 CF30-5003(89)尺八/斎藤参勇、
三野宮貴美男。

△成田雲百合 CF-3453(89)土の匂いがする
歌唱。尺八/渡辺壮憧。

△工藤竹風 CRCM-10008(98)尺八/高橋竹山。

「秋の山唄」(宮城)

♪ハアー 奥州涌谷の 篋岳さまはヨー
山子繁盛の ハア守り神ヨー
ハアー 山に木の数 野に萱の数ヨー
黄金田圃は ハアはせの数ヨー

夏の朝、まだ暗いうちから近くの山で草を刈り、
刈った草を馬の背に積んで戻ってくる。その行き
帰りに唄った。本来は秋の雑木伐りの時に唄う木
伐り唄。宮城郡、黒川郡、桃生郡(ものおぐん)あたり
で広く唄われていた。昭和十七(1942)八年頃、東北
民謡の父と呼ばれる後藤桃水(1880-1960)は、これ
まで草刈り唄と呼ばれていたものを「秋の山唄」
と改名する。

涌谷町(わくやまち=遠田郡)は昭和三十(1955)年
七月、涌谷町と篋(篋)岳村が合併して誕生。篋岳
(ののだけ=236 ㍊)の山頂部分を占める篋(篋)峯寺
(こんぼうじ)にある白山社は、宝亀六(775)年、大伴
駿河麻呂が建立したと伝えられ、一山の鎮守、作
神様として当地方の信仰を集めている。篋とは矢
柄のこと。坂上田村麻呂(758-811)の伝説に由来す
る矢竹が、山にびっしりと生えていたので篋岳と
命名された。

§ ○鈴木大 K30X-218(87)尺八/米谷龍男。

自然な歌唱。声の使い方、小節の返し方も自
然で上手い。

○吉沢浩 KICH-2464(05)尺八/郷内靈風。

△菅井兆月 CRCM-10018(98)尺八/郷内靈風。
素朴なお爺さんが唄っているようで、捨て難
い味がある。

「夏の山唄」(宮城)

♪ハアー 鳴くなちやぼ鳥 ハアーまだ夜が明けぬ
明けりやお山のナア 鐘が鳴る
ハアー 独り徒然だ ハアーこの山道を
一声啼かんせナア ほととぎす

宮城、桃生、黒川郡の農村で、夏草刈りの往来
に唄われていた草刈り馬子唄の一種である。薪
にする雑木切り(かくま刈り)の時に唄う。酒盛り唄
の甚句が野外で唄われるうち、のんびりとした節
回しになったものか。松島北方の品井沼で、菱取
りが行われていた明治の末頃まで、菱取り唄とし
ても唄われていた。昭和十七(1942)八年頃、後藤桃
水が命名。日々、労働で疲れた体を睡眠で取り戻
そうとしている農家の人々の心情が、うまく吐露さ
れた秀歌である。美声に頼らず、素朴な仕事唄の
雰囲気を出して唄って欲しいものだ。

徒然(とぜん)は“つれづれ”の漢語。中世に使わ
れた“徒然”が東北に残っていて、物寂しい、退屈
だとの意味で使われている。

§ ○鳴子勝栄 APCJ-5035(94)労働者の唄っぽく
洪い美声。

△吉沢浩 KICH-2464(05)尺八/郷内靈風、米谷
威和男。エコーがわざとらしい。

△熊谷一夫 COCF-13285(96)尺八/郷内靈風。
声に強弱を付けたバタ臭い美声。

「会津磐梯山」(福島)

♪(ハアヨイショ)
エイヤー会津磐梯山は宝の山よ 篋に小金が
エーマタ 成り下がる
(チヨイサーチヨイサー)

エイヤー東山から日にちの便り 行かざる
まいエーマタ 顔見せに
(チョイサーチョイサー)
(小原庄助さん 何で身上つぶした 朝寝 朝酒
朝湯が大好きで それで身上つぶした
ハアもつともだ もつともだ)

磐梯(いわはし)とは、天まで届く岩のはしごの意。磐梯山は、猪苗代湖の北に位置する成層火山(標高1819^米)で、明治二十一(1888)年の水蒸気爆発により小磐梯山の山頂を含む北側が崩壊して現在の山容となった。

明治初年のころ、越後の五ヶ浜(新潟県西蒲原郡巻町)から来た油絞りの若い衆が、市内七日町の阿弥陀寺の境内で、越後の五ヶ浜甚句を唄い踊った。それが会津に広まり、盆踊唄、会津甚句などと呼ばれたが、一時“かんしょ踊り(気違い踊り)”と呼ばれたほど熱狂的に唄い踊られた。

昭和九(1934)年頃、小唄勝太郎(1904-1974)が“小原庄助さん、なんで身上つぶした”の囃子言葉で唄うと、全国に広まった。当初、地元の節回しとは異なる勝太郎節にクレームが付いたが、土地の宣伝効果が大きく、黙認された。小原庄助のモデルとなったのは、長野県上伊那郡高遠町河南の小原出身の武士である。寛永二十(1643)年、高遠藩主・保科正之(1611-1672)が会津に入府したとき、侍従して会津に住んだ。会津藩郷頭の職にあり、明治元年の会津戦争のさなか、材木町の激戦で戦死する。

櫓を組んで行う会津の盆踊りは、江戸時代中頃から盛んに行われ、盆唄の文句は玄如節から転用されている。八月十三～十八日に行われる東山温泉の盆踊りは、川の真ん中に三層の櫓を立て、二つの橋を使って櫓を取り囲み、一重二重と輪を作って踊るスケールの大きな盆踊りである。

§ ◎歌川重雄 C0CJ-31889(02)高音で味と渋さのある声。雅趣もあり、力んで肩肘張った発声をせず、爽快感がある。三味線/藤本秀花、藤本秀久、笛/米谷威和男、太鼓/美波三駒、鉦/美波駒世、囃子言葉/佐藤松重、網師本律子。

○地元歌手 BY30-5017(85)歌川重雄か。元気のよいご婦人達のお囃子にも野趣がある。

○菅原津志緒 CRCM-10019(98)FGS-603(98)三味線/生江忠男、渡部欣宏、石井典夫、太鼓/横山吟風、小池岩夫、笛/田村正男、鉦/鈴木利光、掛声/鎌田美恵子。賑やかなお囃子で唄う田舎のお婆さんの雰囲気。

△小野田実 28CF-2874(88)独特の味のある声で、穏やかにさらりと唄っている。三味線/本條秀太郎、本條秀、笛/佐藤華山、太鼓/美波那る駒、チャンチキ/美波祐三郎、囃子言葉/白瀬社中。

△小唄勝太郎 VDR-25152(88)長田幹彦補作詞、編曲/山田栄一。日本ビクター管弦楽団。三味線、鳴り物、合唱入り。音源はSP盤。山田栄一の編曲により、親しみやすく、味のある華やかな曲調が、勝太郎の歌唱とマッチしている。

「筑波山唄」(茨城)

♪お山ナエー

お山筑波はナエー 恋風女体

情け情け男体ナエー 夫婦山ナエー

金子嗣憧作詞作曲。金子の新民謡作品には、栃木県の「日光山唄」がよく知られている。

§ ○湯浅みつ子 C0CF-14308(97)尺八/矢下勇。朗々たる美声で、野趣豊かに唄っている。

「日光山唄」(栃木)

♪ハアー 男体お山をヨー 紅葉が飾りゃ

馬子も小粋なヨー ハアー紅緒笠ヨー

金子嗣憧作詞作曲の新民謡。昭和五十一(1976)年、宇都宮に住む尺八奏者の金子嗣憧(1928-)は、再三、日光を訪れ、中禅寺湖北岸の男体山(2484m)に登って想を得た。自然への畏敬、男体山への畏敬の念がこの唄を作らせたという。歌詞に日光連山、日光東照宮、華厳の滝が詠み込まれている。めりはりを付けて丁寧な唄うと、山唄の感じがよく出る。

男体山は延暦元(782)年、芳賀郡高岡(真岡市)の下野(しもつけ)国府役人の家に生まれた僧・勝道(735-817)が開山。補陀洛山(ふだらくさん)と命名されたが、後に二荒山(ふたらさん)と改称され、その後、空海(774-835)が音読みの二荒に日光の字をあてて改称したといわれる。

§ ◎美里ゆり COCF-9308(91)尺八/金子嗣懂。金子は千葉県船橋市生まれ。終戦時、イギリス軍の捕虜だったとき、慰問団の尺八を聴く。その音色に惹かれて復員後の昭和二十一年(1946)年、船橋市内の都山流尺八の今井百山に入門。同三十(1955)年代には、東京北千住の琴古流尺八、渡辺輝懂の門下となった。同門に藤堂輝明がいる。

○藤堂輝明 COCF-11371(93)勢いがあり、山唄らしく唄っている。

「米山甚句」(新潟)

♪サーサ参らんしょうよ 米山薬師

ひとつ身のため ササ主のため

サーサ頸城見納め 米山三里

峠越ゆれば ササ柏崎

柏崎の西方、中頸城郡(なかくびきぐん)と刈羽郡(かりわぐん)の境にそびえる米山(993m)は、越後富士と呼ばれる。

頂上に泰澄大師創立と伝える薬師堂がある。雨乞いに靈験があるといわれ、五穀豊穰を祈る農民たちの信仰を集めている。江戸時代末、刈羽郡荒浜村出身の力士・登龍山は、相撲よりも甚句を得意としていた。登龍山は後に米山と改名する。いつしかこの米山が唄う甚句は、米山甚句と呼ばれるようになったという。米山の名は力士としての記録はないが、米山甚句の古い踊りは、力士が四股を踏むような野暮ったいものであった。日清戦争(1894~1895)後から大正にかけて、俗謡として広く愛唱された。

§ ◎初代峰村利子 TFC-909(00)声に力があり、軽快な節回しで実にうまい。伴奏者不記載。明治二十九(1896)年、新潟県三島郡雲崎町に生

まれた峰村は、小学校卒業後、親戚の長岡芸者の置き屋に養女として入る。十八歳で芸者小仙を名乗り、結婚を機に上京。春日とよ照の名で、大塚に小唄教授の看板を掲げた。その指導ぶりが評判で、NHKから声がかかり、伴奏者として活躍した。米山甚句は、峰村と小唄勝太郎の唄によって県を代表する民謡となった。

◎椿正昭 VICG-2040(90)端正で雅趣と味がある。三味線/藤本秀心、尺八/米谷智。

○初代浜田喜一 COCF-12697(95)戦時下に唄う浪曲風。浜田が一座を組んで巡業していたとき、得意のレパートリーにしていた。

○小重、高橋睦子 COCF-9309(91)お婆さんに近い田舎芸者さんのようだ。味も野趣もある。三味線/勝田信子。

○赤川イシ子 KMH-07923(95)柏崎民謡保存会。三味線/田辺伊勢松、間島正明、内山正三郎、尺八/桑原秀雄。

△市丸 VICG-2064(89)三味線/静子、豊文、鳴り物/堅田喜三久、藤舎呂誠、堅田啓光、笛/鳳声晴郷。市丸の粋でお色気がある歌唱は、他の追随を許さない。

△湯浅弘子 CF-3458(89)三味線/豊静、豊藤美、尺八/石高琴風、佐藤華山。田舎芸者の雰囲気できっちりと唄っている。

「木曾節」(長野)

♪木曾のナー仲間りさん 木曾の御岳

ナンチャラホイ

(夏でも寒い ヨイヨイヨイ)

裕シヨナー仲間りさん 裕シヨやりたや

ナンチャラホイ

(足袋ヨを添えて ヨイヨイヨイ)

ゆったりとしたテンポで、唄と踊りと手拍子が一体となった上品で涼やかな唄だ。木曾谷一帯の村々で踊られていた木曾踊りには、数十種の唄と踊りがあった。永享六(1434)年、木曾家十二代・木曾信道が福島に城を築き、興禅寺を復旧して木曾

義仲の菩提寺とする。そのとき倶利伽羅峠(くりからとうげ)の戦勝を記念した霊祭が行われ、風流陣の踊りがなされた。このときの武者踊りが木曾踊りの起こりであり、その後、盆踊りとして定着したという。室町時代の『閑吟集』に記載されるほど、古くから都にまで知られていた。

木曾川で材木を流し出す王滝川の木流し人夫は、鳶口を使いながら木遣り唄を唄っていた。それがいつしか、お座敷唄の御岳山節になったものらしく、囃し言葉にその名残がある。“中乗り”は木曾川で木材を運搬する筏の真ん中に乗った筏師だが、その昔、馬に三宝荒神という鞍を置き、その真ん中に乗った人を中乗りさんと呼んでいた。御岳教で神のお告げを信者に伝える人も“なかのり(中座)”と呼んでいる。囃子言葉のナンチャラホイは“なんじゃやらほい”が詰まったもの。梵語に由来するといった説もある。

大正四(1915)年、木曾福島町長の伊東淳(いとうすなお 1876-1942)は、木曾踊りの復活を図り、御岳山節を元唄にして木曾節を作った。自ら“木曾踊り司”を名乗り、振興策として観光客に免許状を発行して唄の普及に努めた。木曾郡木曾町福島では「相許候事木曾踊(相許し候事の木曾踊り)」という免許状を発行している。

三味線、太鼓の鳴り物入りで、賑やかに唄われるお座敷唄の木曾節は、地元のものとは節回しが違う。

§ ○ 奥原行雄、八木広助、小田国雄

COCJ-30338(99)三味線/清香、太鼓/安田赳夫、笛/大橋澄雄。

○ 加藤幹雄、塩原武光、森下政吉、八木広助
FGS-605(98)三味線/清香、笛/棚橋喜一、太

鼓/安田赳夫(木曾踊り保存会)。

△ 地元歌手 BY30-5017(85)土地の匂いを感じさせて心地よい。

「多幸山」(沖縄)

♪ 多幸山ぬ山猪 驚くな山猪

嘉名ぬ高波平 サヨ山田戻い

いった山田や 何さる山田が

我が身ん蔵波 出じんちゃせ じんちゃせ

チサキヤリヤリ チサキヤリヤリ

(取やい投げりば くみがんかちみてい 十日
ん二十日ん くんぱと一れ)

本島北の国頭郡の民謡。沖縄のカチャーシー曲の一つ。言葉遊びで地名を歌い込み、言葉尻をとらえて、ときには猥雑な軽口を交え、三線の早弾きとアドリブの早口を楽しむ騒ぎ歌。

読谷村喜名から数キロ北上すると、真栄田岬の南東側から見て北西にのびる陰しい山並がある。その北端に一段と高くなった多幸山(たかうやま)。真昼でも薄暗いほど木々が生い茂っており「フェーレー(山賊)の出る場所」として人々から恐れられていた。この山の頂上近くにフェーレー岩と呼ばれる切り立った岩がある。その昔、その岩の上にフェーレーが現れて、ひっかけ棒で多幸山越えをする旅人から持ち物を奪ったという。

§ ○ 知名定男 KICH-2470(05)

○ 登川誠仁 RES-118(07)

(令和2年9月19日 日本民謡研究の
泰斗・町田佳聲先生のご命日に記す。)

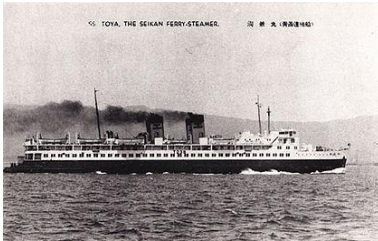
洞爺丸台風と北海道

松本 良樹

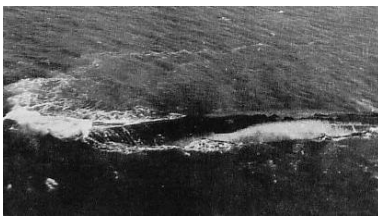
皆さんは洞爺丸台風をご存じでしょうか。

昭和29年9月26日未明に九州南部に上陸していたこの台風は、九州地方・中国地方を通過し、日本海へ抜けた後に更に発達しながら北上。

函館沖では洞爺丸をフェーン現象により転覆させ、岩内町では3,300戸を焼失させる岩内大火を引き起こすなど、北海道を中心に多数の犠牲者を出した台風でした。



洞爺丸



転覆し船腹を見せる洞爺丸

豪雨による水害はなかったものの、反面、強風による被害を大量にもたらした、いわゆる『風台風』でした。気象庁は、昭和33年の台風22号を同年11月に『狩野川台風』と命名したことに伴い、昭和29年の台風15号についても、遡って『洞爺丸台風』と命名されたのです。

三浦綾子の小説『氷点』で、作中の主人公の家族が洞爺丸に乗船し、事故に遭遇するのを描き、テレビドラマにもなって一世を風靡しましたが、ご存知の方も多いと思います。



この洞爺丸台風によって大雪山の樹木がなぎ倒され、あわや腐ってしまいそうという時に、石北上川駅の近くに国策パルプ上川工場でパルプの原料として活用することになりました。

昭和31年から山奥に飯場を造り、この飯場と上川工場との電話連絡が出来る回線を、時の富士通信機製造株で受注し設置にあたりました。

VHF帯の無線で結ぶのですが、見通しのきく山の上にアンテナを立て無線機を置き、それから有線で飯場まで引っ張って常時電話連絡が出来るようにしたのです。

この山(大函(おおぼこ))の無線機の現地調整に、私一人で出張いたしました。若干19歳の若者が初めて北海道の土を踏んだのは昭和31年の11月3日でした。この当時は夜行列車で青森に着き、青函連絡船で函館まで、それから札幌の支店で挨拶をして上川まで長い旅でした。



大函

翌朝ジープで大函へ行くのですが、道路はデコボコ道で揺れ通しでした。途中層雲峡温泉があり、その先は100mに近い断崖と絶壁・得も言われぬ紅葉が綺麗で、日本にもこんな景色があるのかと驚いたものです。



層雲峡の紅葉

アンテナの方向調整と無線機の調整を終え、さて帰ろうかとした時、国策パルプの方が、外は雪が降っており、どうやらこれは根雪になりそうだ……？ 上川と連絡は取れるが迎えのジープが夏タイヤでは迎えが出来ないとの事、飯場まで歩くしかないと言われ、二人で歩きました。途中、日は暮れ熊が出るので大きな声で歌を歌いながら2.5時間かかり飯場まで。

飯場について驚いたのは猟銃が6～7丁あり、樺太犬が10匹程度も居ました。寝る前には猟銃で空砲を討って寝るのです。

飯場では今日から上川工場と電話で話す事が出来るようになったと喜ばれ、大いに歓待されました。勿論電気はなく、新聞も数日前のものばかり、この飯場で3日間ランプ生活を過ごし、やっと帰れるようになりました。

あれ以来層雲峡～大函には行く機会もなく、現在では道路も良くなって、昔とは考えられない位良くなっている事だと思いますが、昔の北海道初旅行の思い出話をさせて頂きました。

以上

コロナ禍でのふるさと「茨城」の墓参

宮本 直紀

亡母の命日に、ふるさと「茨城」の墓参に行ってきました。

久しぶりに常磐線の取手駅から大和交通バスを使用し、以前は父方の実家の前まで行っていたバスは、早朝と夕方の二便だけになっていた。



取手駅東口

やむを得ず手前のバスの終点から田舎道を徒歩25分、墓参を済ませ旧知の知人宅を訪問。

暫しの間軒先でマスクのまま、昔話や周辺の状況などの話の後で、車で送ってくれると言われたが辞退し、また元のバス停まで歩き取手駅へ。

再度常磐線で母方の実家のある2駅先の佐貫駅へ。佐貫駅は既に竜ヶ崎市駅に改名されていた。(*注)



JR 竜ヶ崎市駅・関東鉄道佐貫駅



関東鉄道佐貫駅

駅から2~3分の祖父母・分家の墓参を済ませ、そこから数分の母の実家に電話し、在宅を確認して立ち寄ることになった。

昔懐かしい茅葺き屋根の長屋門はなくなっていたが、幼少時夏休みに過ごした思い出の場所は至る所に散見することができた。

アポなしの訪問にもかかわらず、住んでいる従弟夫婦には歓迎していただいた。昼時だったのでカレーライスをご馳走になったが、たぶん奥様の分をいただいたのかも？

近所に住み某電機会社に勤務の長男が、挨拶に顔を出した。毎日実家に来て、テレワークで仕事をしているとのこと。

両親も嬉しそうだ？

再三マスクを外すように言われたが、飲食以外はマスクのまま

- ・独立しているお子さんや、近隣にすむ分家の家族の消息。
- ・バスでは竜ヶ崎市駅と竜ヶ崎駅が4キロも離れているが紛らわしく、うっかりバスに乗りそこなった。
- ・健康維持にゴルフの打ちっ放しや畑での野菜づくりの話。
- ・奥さんは、昔柿生に住んでいた事もあり、新百合ヶ丘リリエンベルグの話。

等々の話題で楽しく歓談。

お土産には、わざわざ裏の畑から茄子・葱・ミョウガなどを採っていただき、帰り道は、大相撲の力士9人の集団脱走で話題になった「式秀部屋」も案内していただいた。



式秀部屋

年賀状以外は久しぶりの「ふるさと」だったが、やっぱり「ふるさと」はいいなあ～。人も景色も温かい！！

また、来年も行きたいなあ～と思った一日でした。

(*注)

JR 東日本の駅名「佐貫駅」は、千葉県富津市にある内房線の「佐貫町駅」とは名称が似通っていたことから、「佐貫町駅」が最寄りの「マザー牧場」へ向かう旅客が、誤って当駅で下車した事例が報告されていた。

そのため当駅の構内には「注意! 当駅は、マザー牧場の最寄り駅ではありません。」と注意を促す掲示がなされていた。

以上

新百合ヶ丘駅誕生の頃の思い出

平塚 征英

麻生区にお住いの皆さん、新百合ヶ丘の誕生の頃をご存知でしょうか？

私・平塚は現在、横浜市青葉区在住ですが、昭和45(1970)年に結婚した時は平尾団地に住んで、昭和50年に現在の青葉区たまプラーザに引っ越しました。

平尾団地には百合ヶ丘駅からバスが出ていましたが、残業で深夜になると、相乗りタクシーで帰宅したことが度々ありました。

百合ヶ丘駅近くで外食した事もなかったので、駅周辺の記憶は殆どありません。

昭和49(1974)年6月の新百合ヶ丘駅の開業から1年間は、新百合ヶ丘駅を利用したのですが、駅周辺の事はおろか、下車したバス停がどこにあったか、駅までのルートはどうだったかは殆ど記憶にありません。

津久井道にあった新百合ヶ丘駅に近くの新百合ヶ丘バス停で下車したのは確かですが、その後、斜面沿いの道を登って新百合ヶ丘駅に着いたとの記憶だけが残っています。

資料の1ページの右側の地形図(昭和53年)では、開業後4年経っても新百合ヶ丘駅周辺は全く開発されておらず、駅南口近くにグラウンドがあるだけです。駅の北側は全くの自然のままです。

● ****

麻生小学校の場所は、以前巨大迷路「あ？めいず」があった！1988年(昭和63年)

- ・駅周辺の開発が進まず空き地だった新百合ヶ丘の公共施設用地に、仮施設でオープン。
- ・現在は、麻生小学校の敷地になります。
- ・大人気で多くの子供達で賑わったようです。
- ・入口でタイムカードを押して、迷路内に設置された4ヶ所のポイントで、「あ」「め」「い」「ず」の4文



図の①付近が現在の「新百合ヶ丘駅入口」交差点なので、現在の「麻生警察署前」交差点は少し西へ進み、平尾団地からの道が津久井道に交わるT字路付近なのでしょう。

新百合ヶ丘駅入り口のバス停は、今の麻生警察署前交差点付近にあったのでしょう。

昔のことをご存知の方がおりましたら、話をお聞かせ下さい。

何かの機会に「お話し会」でも開ければ良いですね。

以上

字を集める速さを競うルールだったようです。

- ・迷路は可動式の壁で出来ていて、定期的に組みかえられていたようです。

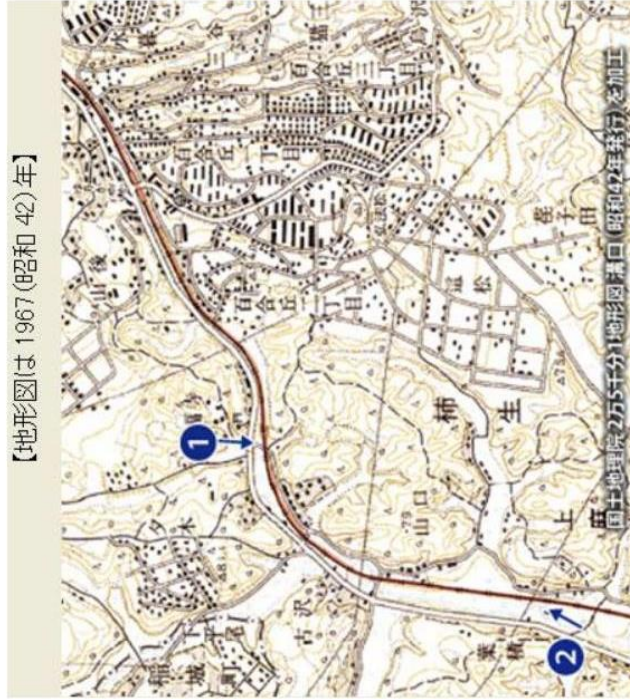
- ・1980年代は巨大迷路ブームで、このような巨大迷路が全国100ヶ所以上存在していたようです。

新百合ヶ丘の誕生

現在の「新百合ヶ丘駅」付近は、かつては「百合ヶ丘」の造成地に隣接する丘陵で約 65%が山林という土地であった。「小田急電鉄」の「多摩ニュータウン」への新線建設を機に「新百合ヶ丘駅」が建設され、1974(昭和 49)年に開業したが、

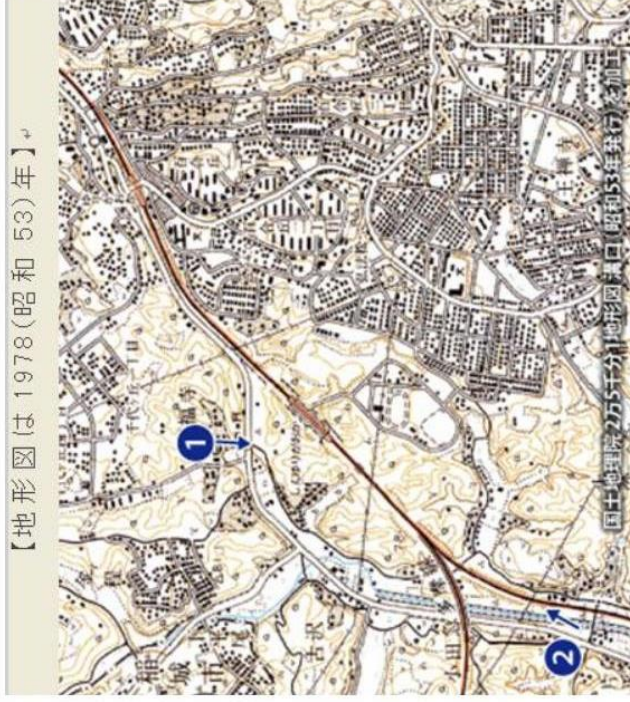
土地区画整理事業が進むまで、駅の周辺にはクスギヤコナラの雑木林が広がっていた。

小田急線の付け替え



【地形図は 1967(昭和 42)年】

1967(昭和 42)年と 1978(昭和 53)年の地形図を見比べると、後の「新百合ヶ丘駅」付近は、かつては「百合ヶ丘」の造成地に隣接する丘陵地で、1967(昭和 42)年の地形図①付近のように小田急線は S 字のカーブで丘陵地を避ける、「津久井道」に概ね並行したルートであった。



【地形図は 1978(昭和 53)年】

1968(昭和 43)年、「小田急電鉄」は東京都などが開発を進めていた「多摩ニュータウン」へのアクセス路線(現・多摩線)と、その分岐駅となる新駅を百合ヶ丘・柿生間に作る計画を発表。1970(昭和 45)年に着工、多摩線と丘陵地を貫く直線的な小田原線の新線、分岐駅となる新駅「新百合ヶ丘駅」が建設され、1974(昭和 49)年 6 月に開通・開業した。



写真は、旧線が新線に切り替わる直前の1974(昭和49)年5月の撮影。場所は旧線の「百合ヶ丘2号踏切」で、上地形図の①付近。【画像は1974(昭和49)年】



同地点付近の現在の様子。バス停の先の交差点がかつての踏切付近。写真には写っていないが、交差点から左方向に延びる歩行者専用道路が線路跡となる。この交差点の先に「新百合ヶ丘駅」北口のロータリーがある。

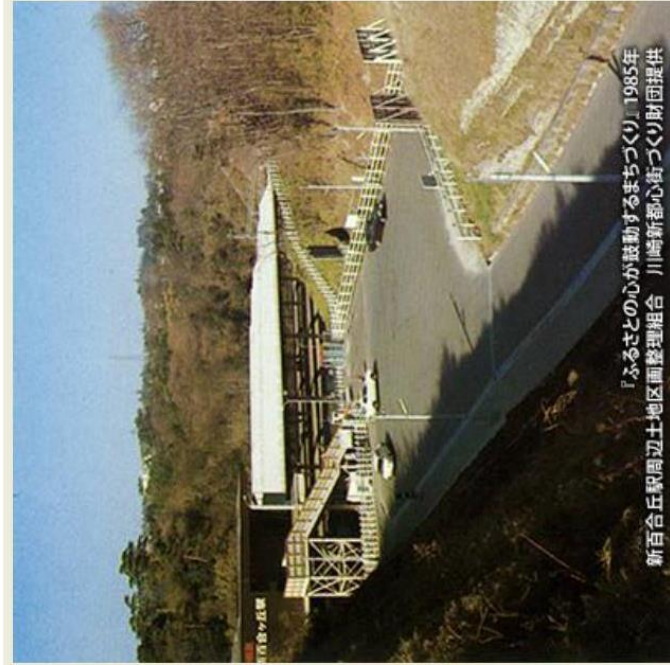


「新百合ヶ丘駅」が開業する2週間ほど前の様子。小田急線の下り線(右側)は新線に切り替わっているが、上り線(左側)は旧線のままという珍しい写真。下ってくるのは、「NSE」の特急ロマンスカー「あしがら」号。多摩線の高架橋も見え。撮影場所は上地形図の②付近。【画像は1974(昭和49)年】



同地点付近の現在の様子。このあたりの旧線の跡は、保線用の用地として使用されている。写真の特急ロマンスカーは2018(平成30)年に登場した「GSE」。

「新百合ヶ丘駅」の開業

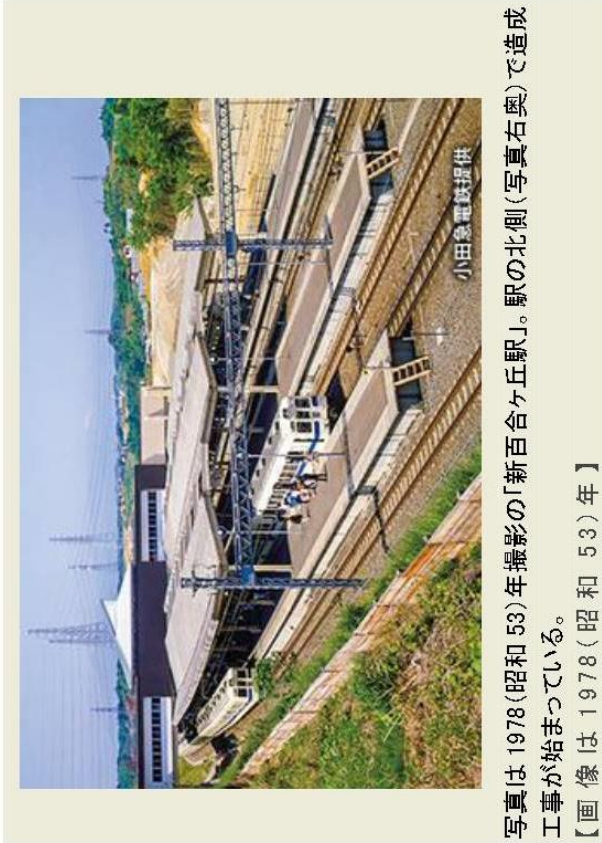


新百合ヶ丘駅周辺地区画整理組合 川崎新都心街づくり財団提供
『ふるさとの心が鼓動するまちづくり』1985年

「新百合ヶ丘駅」は1974(昭和49)年に開業した。写真は1977(昭和52)年、現在の南口側の駅前。開業より3年経過しているが、駅前にはまだ建物は見られず、周辺はクスギやコナラの雑木林が広がっていた。この年から駅周辺の土地区画整理事業が始まっている。【画像は1977(昭和52)年】



現在の「新百合ヶ丘駅」南口側の駅前。多くの商業施設が立地するほか、バスロタリーから多くの路線バスが発着するなど、交通の要衝にもなっている。



新百ヶヶ丘駅周辺の開発状況：年表

1973(S48)	川崎市が現新百ヶヶ丘駅付近を中心とする北部副都心構想を発表した。	1992(H04)	新百ヶヶ丘エミロードが開業。
1974(S49)	小田急多摩線が開通し、新百ヶヶ丘駅・五月台駅・栗平駅・黒川駅が開設。	1994(H06)	セゾングループが出店を断念。
1977(S52)	「新百ヶヶ丘駅周辺土地区画整理組合」が設立、土地区画整理が開始し、1984(S59)年度に完了した。	1995(H07)	黒川で、かわさきマイコンシティの企業誘致が始まる。
1982(S57)	多摩区のうち旧柿生村・旧岡上村の全域、および旧生田村の一部が区分し麻生区が誕生する。	1997(H09)	新百ヶヶ丘ビブレ開業。6階にシネマコンプレックス。
1986(S61)	バス乗り場が整備された。	2000(H12)	駅北に「万福寺土地区画整理組合」が設立。2008(H26)に完了。
1990(H02)	小田急アコルデ新百ヶヶ丘が開業。	～	オーバビル・リソーナ銀行ビル・WTC 新百ヶヶ丘ビル・コナミスポーツビルなどが開業し、川崎市の副都心として発展した。
1991(H03)	川崎市が新百ヶヶ丘地域を対象に「芸術のまち」構想を発表する。	2002(H14)	昭和音楽大学が移転。
1992(H04)	「新百ヶヶ丘マブレ」が駅南口から延びる歩行者道沿いに開業。	2007(H19)	アートセンター開業。